

特別企画「ソーシャルワークと哲学」開催

～『援助者が臨床に踏みとどまるとき』を読み、著者と語る～



稲沢公一先生（東洋大学教授）



アジア国際社会福祉研究所は10月25日、11月1日、『援助者が臨床に踏みとどまるとき』の著者、稲沢公一先生（東洋大学ライフデザイン学部）をお招きし、1号館同窓会会議室にて、研究会を開催しました。

各回総合福祉学部の先生を中心に十数名の参加者があり、第1回は研究所の松尾先生、第2回は福祉学科の米村先生がそれぞれ口火のレポート、次いで参加者と著者、参加者同士の質疑、議論がなされました。



「なぜ援助するのか」という発題から、問いの答えを追求することの危険性や、科学的であろう、専門性をこだわりすぎ解を提案するだけの実践に陥る矛盾、宗教・哲学の面から福祉や臨床を捉える視点など、「援助者と臨床」について日本のソーシャルワーク教育の教科書に名前を連ねる参加者達が熱く語る機会となりました。

研究会最終回(12月19日)は都内で開催されます。参加費は無料ですが、参加ご希望の方は事前に研究所までお申し込みください。



今回の企画は、ソーシャルワーク教育が導入されていない国、ブータンからのビジネスマン・リサーチャー、デチェン・ドマ先生の声から生まれ、伊藤千尋先生の著者紹介により実現したものです。

◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。